

7月7日、七夕。

7月7日に織姫と彦星が天の川を渡って年に一度の再会を果たす七夕伝説。もし、天気良ければ、夜空を眺めてみてください。そして、天の川に願いをこめつつ、星まつわりの小説を読んでみるのはどうでしょう？

夜空を見上げたくなる1冊

かぞえきれない星の、その次の星	重松清	KADOKAWA
「さみしさは消えない。でも、希望はある。」誰もが少なからず心にある、さみしさ。このさみしさに、そっと寄り添ってくれるようなとても優しい作品。		
星に願いを、そして手を。	青羽悠	集英社
中学三年の祐人は、いつも薫、理奈、春樹とプラネタリウムのある科学館で過ごしていた。宇宙に憧れる四人は似た夢を持ち、同じ高校に進むが…。夢を追い続ける人、夢を諦めてしまった人。それぞれの想いが交錯する青春物語。		
天地明察	冲方灯	角川書店
第4代将軍・家綱の世、日本独自の暦(こよみ)を作るプロジェクトが立ち上がった。そのプロジェクトを任されたのは、碁打ちの名門に生まれた渋川春海。次第に、碁ではなく、「算術」の魅力へと導かれていく！はたして、プロジェクトは達成できるのか！？		
星の降る家のローレン	北川恵海	角川書店
母に捨てられた少年・宏助は、『光の魔術師』と言われた謎多き中年画家・ローレンと出会う。ローレンの描く絵に秘められた悲しい真実が明らかとなる時、家族の愛とは何かを知る事となる！		
星砕きの娘	松葉屋 なつみ	東京創元社
鬼の砦(とりで)にとらわれた少年が、ある日、川で拾った不思議な赤子は、一夜にして少女へと成長した。しかし、少女は明の星が昇ると赤子へと戻ってしまう。その少女がふるう「星砕」の剣には鬼を滅する力があつた。人は鬼に勝つことができるのか？第4回創元ファンタジー新人賞受賞作品。		
星空放送局	中村航	小学館
手紙・月・星をそれぞれテーマにした3話構成のイラスト+ショートストーリー。夜空をみあげたくなる画集のような作品。		
星をつなぐ手	村山早紀	PHP研究所
小さな町の小さな書店「桜風堂書店」で起こる、本を愛する人たちの心温まるストーリー。そして、『冬の星祭り』の日に、優しい奇跡が巻き起こる！本屋大賞にノミネートされた『桜風堂ものがたり』の続編。		
流星ワゴン	重松清	講談社
生きる気力を失っていたカズは、5年前に交通事故死した父子の乗る不思議なワゴンに拾われた。時空を超えて、人生の岐路となった場所への旅がはじまった。親子の絆、家族愛を描いた作品。		
流星の絆	東野圭吾	講談社
何者かに両親を惨殺された三兄妹は、流れ星に仇討ちを誓う。3人は、14年間、自分たちだけを信じ、犯人への復讐の機会を待っていた。そして、完璧に仕掛けたはずの復讐計画に大きな誤算が！涙あふれる衝撃の真相とは…。		



『満月珈琲店の星詠み』

望月麻衣/著 文藝春秋

そのカフェは、満月の夜にだけ開店する。占星術と素敵なスイーツで、訪れる客の悩みを解決してくれる不思議なカフェ。そして、なんと！猫が店主。あれは、夢の中の出来事だったのか？それとも、現実？こんなカフェを満月の夜に探したくなる素敵な癒しの物語。短編連作集。

星や占いが好きな人は、ぜひ読んでみてください！